

歴史にみるスポーツマンシップの形成 ―イギリス近代スポーツを中心に―

The formation of sportsmanship in history

―Focus on modern sport in the United Kingdom―

1K06B507

佐藤 圭

指導教員 主査 倉石 平

副査 寒川 恒夫

【目的】

本論文の目的は、「スポーツマンシップ」形成の歴史を明らかにすることである。

一般に定着している言葉として「スポーツマンシップ」という言葉がある。筆者も小中学校教育の体育や運動会、部活動の大会などにおいても「スポーツマンシップに則り・・・」という言葉を目にしていた。しかし、筆者には学校教育等においてこの「スポーツマンシップ」という言葉の説明、指導をされた記憶はなかった。筆者はこのような、曖昧な意味を持ちながらも定着している「スポーツマンシップ」に疑問を抱いた。また、歴史を振り返ることで、筆者が漠然と考えているような倫理的な意味を持った「スポーツマン」が形成された背景や「スポーツマンシップ」を考察することができるのではないかと考え、本研究に至る。

【方法】

本論文は主に文献研究によるものとする。

第一章では、既存の書籍における「スポーツマンシップ」の記述を参考に、その意味、構成要素を明らかにした。

第二章では、辞書に見るスポーツ関連用語の概念変遷から、「スポーツマンシップ」の発生時期や、倫理的要素を重要視し始めた時期を明らかにした。

第三章では、第二章を踏まえて特にイギリス近代スポーツの歴史に着目し、その背景を明らかにすることで「スポーツマンシップ」がどのように形成されていったのかを研究した。

【結果】

第一章から、「スポーツマンシップ」とは「尊重」することであり、その対象として「相手」、「審判」、「ルール」が挙げられた。しかし、スポーツマンシップには、フェアプレー、Good Loser やルールの遵守といった数多くの考え方が含まれている。このように、スポーツマンシップが内包している意味は多様で、その構成要素を断定することはできなかった。しかし、スポーツマンが持つべき倫理的・精神的態度、ある

いは徳性であるということができる。

第二章から、スポーツの意味は「遊戯」「狩猟」と変わっていき、19世紀頃に「競争」という性質が加わったことがわかった。19世紀の中頃の「スポーツマン」「スポーツマンシップ」に倫理的な意味は見出せなかったが、20世紀初頭のそれにはフェア、公正といった倫理的要素が確認できた。以上からも、スポーツに競技的性格が加わった時期に倫理的な意味を含んだ「スポーツマン」、「スポーツマンシップ」が形成されていることが分かる。

第三章から、産業革命期に引き起こされた様々な事柄がスポーツに影響を及ぼしていたことが分かった。その内容は、スポーツにおけるルールの統一化・成文化、民衆化、大衆化、プロ化などである。特に、スポーツを性格形成や倫理観の形成の「手段」にしようとするムーブメントの興隆は、今日のような倫理的・精神的性質を持ったスポーツマンシップの形成に影響を及ぼした。パブリックスクールでのスポーツの教育化や、「筋肉のキリスト教」による遊戯促進運動をその例として挙げられた。

【考察・まとめ】

本研究から、近代のスポーツマンシップの形成や変容には、その背景にある経済、産業、教育、宗教などのさまざまな要因があったことがわかる。このような観点から、現代のスポーツマンシップもその意味を固定的なものとするのではなく、その時代や国、人といったスポーツを取り巻く様々なものの影響によって常に変化していくものであると筆者は考える。また、スポーツマンシップはただ教わるだけでなく各個人が、それが何であるかを考えることに意義があると感じた。本論文がその一助となることを願って、本研究を終了とする。